

— きらめき — kirameki

櫻井に繋がる全ての女性のための会報



今月のテーマ

「心の花を咲かせましょう」

どんな時、あなたの心の花が咲きますか？
嬉しい時？楽しい時？人だすけをして、喜ばれた時？
心の花が咲くようなお話を聞かせて頂きました。



三年千日の心定め 天理華道への道開け

西田 一美 (華名 一陽)
三陽布教所長
いけほな天流華陽会 家元

お花の家元をされていますが、
お花を習い始めたのはいつからですか？

十七才の時に、先輩に連れて行ってもらってお花を習いに行つたことがきっかけです。習うより教える立場になりたいと思いました。何力所か習いに行き、二十三歳の時には師範になっていました。その時に、師匠が遠くに引越されたのがきっかけで、お花を教える側になりました。

信仰はいつからされていますか？

私が産まれた時から家は信仰していました。大阪生まれでしたが、両親が奈良で商売を始める為、小学校二年生で奈良に引越しました。その後、妹の身上がきっかけで、祖母が布教所を持つことになりました。その後も、妹には度重なる身上があつて、祖母は、小

房の教会の会長になり、母が布教所長になりました。祖母が六十歳頃の時でしたが、当時小房の教会は、ぼろぼろの教会でした。祖母は、お与え頂いた神饌物のお下がりだけで、何も買わない心定めをして通っていたので、母は心配して私が教会に通つて祖母と共に生活していました。祖母のお道一筋に通つてゐる姿を見て、祖母に喜んでほしいと思うようになりました。私が素直にお道を信仰したのは、祖母の信仰が私の心にひたひたと入つてきていたからだと思います。

信仰の転機はありますか？

四十六歳で乳がんになりました。その時に、これからは自分の為だけに生きたらあかんと思いました。命は限りがある。これからの私の命は、人様のお役に立てられるように生かしてもらうのが、私の一番の幸せだと思いました。入院中に同室になった乳がんや白血病の方におたすけをして、おさづけを取り次ぎ、退院後もおさづけを取り次いでいましたが、全員出直されてしまい、生き残つたのは私だけでした。その時に、人様の為に生きていく肝が据りました。

私は高校卒業後に、祖母に喜んでほしいという気持ちだけで修養科に行きましたが、身上・事情等が無かつたので、修養科での学びも真剣に心に入っています。しかし、身上後に講習に行かせてもらった時は、真剣に学ぶことが出来ました。学びは大切だと実感しました。

乳がんになって三年後、椎間板ヘルニアになりました。

た。しかし、大教会の記念祭があり、生け花の生け込みのために神様の事だからと、腰が砕けても良いからさせてもらおうと、お弟子さんを連れて行かせてもらいました。終わつてからは七転八倒の苦しみがあり、一、二カ月は寝たきりになり、ヘルニアとの闘いがありました。なかなか病院にも行けずに暮らしていたら、その三年後にがんが再発したのです。再発した時に悲壮感はありませんでした。自分の命との対峙でしたが、出直しの教理のお陰で、来世があるというのは、勇気、元気をもらえます。出直しの教理は、勇みの心がもらえる素晴らしい教理です。自分の命と対峙した経験は、おたすけに行かせてもらった時に、出直しの教理をおたえすると、身上の方も明るくなつてくださいます。おさづけの取り次ぎと共に、心が勇み、明るくなつてくださるのは、その方の細胞にも影響してくると思います。

お弟子さんとの関係はどうですか？

ICUでのおたすけの場合、厳しい時間制限があります。生け花のお稽古中にその時間になると、お弟子さんの方から「先生おたすけに行く時間です」と声をかけてくれます。お稽古中にもかかわらず、おたすけに行くことを優先してくれる環境というのが、不思議でありがたく、幸せだと思います。お弟子さんたちは、



そんな教室の中にいるので、自然に用木になってくれたり、雑念のない、素直な信仰をしてくれます。お弟子さんを育てるのは子育てと同じで、しんどいとかマインスな事を聞かせると、子供達はいずみません。信仰を伝える時も、聞く必要の無いことは伝えない方が良いでしょう。お道の信仰は『プラス思考で、底抜けに明るい。人様のためにすることに喜びを見出せる』これだけを伝えたら良いと思います。教室の生徒さんにはそのような事を伝えるようにしています。それが自分に出るにおいがけ、おたすけだと思つて生け花を教えてください。

家元になられた経緯を教えてください

元々、真言密教系の流派でした。しかし、お道の信仰を生かした生け花が大切だとずっと思つていました。お道を信仰している華道家の人達と共に、生け花と信仰を融合した形でお弟子さん達の育成をしたいと考えていました。しかし、今迄の流派の中では身動きが取れにくく、どうしたら良いかと模索していました。そんな中、家元さんが流派を閉められるので、所属する団体組織全て退会指示の為、県華道会常任理事にもかかわらず退会する事になりました。これからどうしようかとなつた時、前の家元さんから、新しい流派を立てて家元になれば良いと言われました。県華道会理事長さんはじめ各流派の先生方二様に、流派を立てることを進めていただきました。外からの風が吹いて私は動く事が出来ました。

一ヶ月で流派を立てる事になりました。前大教会長様、千代子奥様お二人にご相談させていただき、新しい流派の名前を『いけばな天流華陽会』としました。そして指針を「自



分をひととらず、まず人様に喜んで頂けるよう心を尽くす」としました。お花を生けて自分の心が落ち着くというのも大切ですが、お花を見てくれた人がホッとするような勇み心が湧くような生け花を生けましょうというのが基本にあります。自分本位の生け花ではなく、見てくれた人の心の救かりになる事が大切なのです。生け花は、言葉がいりません。感性です。だから、日本人だけでなく海外の人にも感じてもらうことが出来ます。ハサミさえあれば、海外でも言葉が通じなくても心でつながれると思います。においがけ、おたすけのツールになると思います。ぜひ海外布教される方に生け花を習ってほしいと思います。言葉だけでは伝わりきれないものが、お花で伝えられる。これが私が華道家として、一番目指しているものです。人間の心は、心を込めたらエネルギーを発すると私は信じています。何でも雑に扱えば雑に受け止められる。丁寧に扱ったら丁寧に受け止められるのです。それが、においがけ、おたすけだと常々思っています。

教室ではどのように

天理教を伝えておられますか？

教室は、布教所の神様が見えるような構造にしています。「神様にアレルギーのある人はここに習いに来るのは無理だと思えます」と最初にお伝えします。天理華道を腹におさめてからは、はつきり言うことによつて、神様を受け入れてくれる人に、段々と伝えていこうと思ふようになりました。今は、来る人来る人、神様にアレルギーは無いと言つてくれます。信仰を強要することはありませんが、神様に見守られながら、お稽古できるのが有り難いです。

— 裏面へ続く —



今の体調はどうですか？

がんが再々発して、今ステージ4です。昨日も病院でCT検査の結果、昨年よりがんが大きくなっていることが分かりました。普通この状態ならもつとしんどくてもおかしくないそうで、お医者さん不思議がる位に、私は元気です。しかし、確実に、私の持ち時間は少なくなっています。痛みも、もちろんあります。少ない持ち時間の間に、天理華道の基盤をしっかりと整えて、後は大丈夫という状態にしておきたいのです。だから気忙しいですし、毎日神様をお願いしながら、自分の出来る精一杯の事をさせてもらおうと思っています。天理華道を整えることが、私の教祖百四十年祭の三年千日の心定めなのです。実は再々発する前は、私はもうがんは卒業していると思っていました。とても元気ハツラツだったんです。論達発布があり、十全の守護をお花で表現しようと、天理華道としてやろうと心定めた二カ月後に、がんが再々発したのです。その時、来たかと思いました。自分がぐっと力をいれると、神様からも何かメッセージがあるのです。それだと思いました。再々発した時、お腹が膨れてパンパンになったのです。消化器の専門医に診てもらおうと、PET検査をするように言われました。すると、体のあちこちつちにがんが転移していることが分かりました。半年間ほとんど食べれませんでした。義弟が私の助かりを願って、修養科に入学してくれました。二カ月目に、私におさづけを取り次いでくれました。その時、



私は水も喉を通らない状態だったのですが、おさづけを取り次いでもらった、三十分後にゴボゴボと音を立てて、腸に溜まっていたものが胃に上がり、洗面器に四杯ぐらい出ました。それでお腹が破裂せずにすんだのです。神様

のご守護を感じました。がんが再々発してからというもの、とにかく周りの人がおさづけに通ってくださいました。身上にお手入れを頂いて、自分が反省し、成人させてもらえるのももちろん有り難いですが、お弟子さんや、周りの人が、大きく成人してくださいませ姿を見られたことが、この上なく嬉しいです。私の周りの方が育ってくださいているのが、ひしひしと感じます。この人の成人、あの人の助かりの為に、神様は、私を使ってくださいているように思います。今は育ちの旬、救かりの旬なのだと思います。体が痛くても、明るく元気に過ごしている姿を見たらう事で、同じ病気で苦しんでいる方の励みになれば良いと思います。本当に、この病気が私で良かった。他の人で無くて良かった。神様にちょうど良いようにしてもらっていると思います。



いけばな天流華陽会 「十全の守護」



たいしょく天のみこと
「前生・今生・来生」
心のほこりや悪いんねんを切って頂き、親神様にお喜び頂けるような心定め、明るく未来を表現しました。



くにとこたちのみこと
をもたりのみこと
「調和」
水の心と火の心、温かく澄み切った心を表現しました。



くにさづちのみこと
月よみのみこと
「つなぎ・つっぱり」
低い心で助け合い、自立とともに支え守る、人の心のつながりを表現しました。



かしてねのみこと
「息吹き分け」
周りの人に喜んでいただけようなあたたかい言葉で包み込む、優しい心を表現しました。



をふとのべのみこと
「生還」
能力が伸びてゆく引き出しの守護
互いに助け合う姿、感謝の心を表現しました。



いざなぎのみこと
男雛型・種の理
いざなみのみこと
女雛型・苗代の理



くもよみのみこと
「循環」
水の循環という自然の恵みに感謝の気持ちを込めて表現しました。